



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4090 号 2017.12.20 発行



カレンダー イラスト使った物語募集 箕面・豊能障害者労働センター販売 受賞作品、  
 保養プロジェクトで披露 /大阪

毎日新聞 2017年12月19日  
 豊能障害者労働センターが販売する「やさしいちきゅうものがたり2018」1、2月のイラスト=同センター提供

豊能障害者労働センター（箕面市）が、カレンダー「やさしいちきゅうものがたり2018」を販売している。売り上げの一部を福島の障害のある子どもの保養プロジェクト「ゆっくりすっぺ in 関西」に充てる。

カレンダー販売は、障害者の働く場の運営資金を確保するため1984年に始まった。2006年から、兵庫県宝塚市在住のイラストレーター、松井しのぶさんが絵を担当。

### 電子投票の研究会設置

毎日新聞 2017年12月20日

野田聖子総務相は19日の記者会見で、電子投票やインターネットを活用した投票の実現性を探る研究会を省内に設置すると発表した。26日に初会合を開く。来年夏をめどに提言を取りまとめる方針。期日前投票の利便性向上や、重度障害者らに利用者を限っている郵便投票の対象拡大の可能性も検討する。

### 黒岩・神奈川知事、今年の漢字は「達」

産経新聞 2017年12月20日

黒岩祐治知事は19日の定例記者会見で、自身が選んだ今年の漢字を「達」と発表した=写真（川上朝栄撮影）。黒岩知事は「(今年は)いくつかの点で到達したという実感を得ることがあった」と、その理由を述べた。

2月に「未病」が政府の健康医療戦略に位置づけられて閣議決定されたことや、2020年東京五輪・パラリンピックの費用負担問題について「最終的にこちらの要求通りに合意、達成できた」と強調。昨年相模原殺傷事件後、とりまとめが難航していた障害者施設「津久井やまゆり園」の再生基本構想を仕上げ、家族会の了承を得たことなどを挙げた。

### 障害者施設の昼食代、「全額自己負担案」を撤回

朝日新聞 2017年12月19日

厚生労働省は18日、障害者が通所施設で提供を受ける食事の代金について、人件費分

の公費負担を来年度以降も続けると発表した。当初は公費負担を廃止する案を示していたが、多い人で月6千～7千円ほどの負担増となる可能性があり、当事者や与党からの反対を受けて撤回した。

生活介護や就労支援などを行う通所施設が昼食を出す場合、食材費は原則的に利用者負担で、1食200～300円の場合が多い。調理を行う人件費分は、世帯収入が年約600万円以下の障害者については、公費から1食300円を施設に支給している。利用者は全国に約26万人で、公費負担は年約190億円だ。

通所施設での食事代は、2006年施行の障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）で人件費分も原則、利用者負担となった。ただ、3年間は激変緩和措置で公費負担とされ、その後3年ごとの制度改正でも措置の延長が繰り返された。来年3月に再び期限がくるのを機に、厚労省が11月に廃止を提案していた。（生田大介）

### 重度心身障害者の医療費 「一定額払い」進まず 国補助金減額の罰則が壁

佐賀新聞 2017年12月20日

重度心身障害者が医療費を医療機関窓口で一定額を払うだけで手続きが済む方式が、佐賀県内の市町で導入が進んでいない。患者が病院に行きやすくなることで医療費の増加を危惧する国が、国民健康保険の国庫負担金を減らす罰則措置を設けているため、市町が二の足を踏んでいる。小学生以下の医療費は全20市町で一定額を払う方式が広がっており、県は重度心身障害者も同様の対応ができるよう、国保の減額措置廃止を国に求めていく。

重度心身障害者の医療費は、医療機関で年齢に応じて1～3割の自己負担を支払い、一定額を差し引いた分の払い戻しを、市役所などの窓口で手続きする必要がある。佐賀県では、自己負担（1回の受診当たり原則500円）を超える分を、市町と県が2分の1ずつ補助している。この分で払い戻しの申請が生じる。補助総額は2016年度、16億1900万円だった。

医療機関の窓口で一定額を支払う方式は「現物給付方式」と呼ばれる。立て替えがなく、行政への払い戻し手続きは不要。県が10月、20市町に実施したアンケートでは、6市町が「負担が増えても現物給付にすべき」、9市町が「国保の減額が廃止されれば、現物給付すべき」と、15市町が導入に前向きだった。5町は現行通りと回答した。

国が医療費抑制で国保会計への補助金を減額するペナルティーが実施されると、県の試算では県全体で約3億円、最多の佐賀市で約8千万円、最少の上峰町で193万円の補助金減額が見込まれるという。

藤原俊之健康福祉部長は「見直す場合は混乱を避けるため、全市町統一すべき」という意見がほとんど。今後、各市町と議論を深めたい。国には引き続き減額措置の廃止を求める」と話す。

### 児童館で小2男児が女性職員の首をバットで殴り後遺症、傷害で児相通告 被害届に「なぜ小学生を追い詰めるのか」と逆非難…

産経新聞 2017年12月19日

兵庫県内の児童館で今年5月、小学2年の男児が施設に勤務する20代女性の首をバットで殴って負傷させる事件があり、兵庫県警が傷害の非行内容で、男児を児童相談所に通告していたことが18日、関係者などへの取材で分かった。女性は右耳がほとんど聞こえなくなるなどの後遺症が出ており、現在も治療中という。

関係者によると、女性は今年5月下旬、勤務していた児童館で、男児に突然、施設にあった少年野球で使われるようなバットで後ろから首を殴られた。女性は意識もうろうとなり、約1週間入院。退院後、右耳がほとんど聞こえなくなり、自律神経を損傷した影響で突然めまいを覚えるようになったといい、12月に再度入院し治療を受けるなどしたが、完治は難しいという。

この男児は、事件の数日前にも別の児童に暴力を振るっていたといい、女性は6月、県警に被害届を提出。県警は捜査の結果、女性に対する傷害の非行内容で10月、男児を児童相談所に通告した。

女性は教員免許を持っており、この児童館で専門職として勤務する以外に別の小学校でも非常勤講師として教壇に立っていたが、事件以降、いずれも休職を余儀なくされている。

刑法は14歳未満を処罰対象から除外している。通告を受けた児童相談所が家庭裁判所に送致すれば、家裁は調査や審判を行う。

教育者は「被害者」になってはいけないのか

「後遺症が出るような傷を負っても、教育者は『被害者』になってはいけないのか」。被害を受けた20代女性は、産経新聞の取材に苦しい胸中を語った。

女性は大学時代に教員免許を取得。事件当時は、大学院で教育学の研究をしながら、小学校と児童館で勤務する多忙な日々を送っていた。「幅広い知識と経験を得て、子供の能力を最大限伸ばせる教諭になりたい」という思いが支えだったという。

事件後は、静かな場所なら相手の話が聞き取れるが、周囲が騒がしいと、ほとんど聞こえない状態になった。授業や課外活動で児童の発言を聞き落としてしまう可能性が高いため、学校での勤務を断念せざるを得なくなった。

だが、それ以上に女性を苦しめたのは、周囲の反応だった。10月、教育関係者が集まる交流会に出席すると、事件を「単なる事故」と切り捨てられ、「児童が感情をむき出しにするのはむしろ良いこと」「小学生をなぜそこまで追い詰めるのか」と、被害届を出したことを逆に非難されたという。

文部科学省が行った平成28年度の問題行動・不登校調査によると、全国の小学校で児童の暴力行為は約2万3千件発生。うち「対教師暴力」は3628件にのぼる。これに対し、警察や児童相談所などが何らかの措置をした児童は219人と、暴力行為全体の約1%にとどまっている。

女性は「児童から激しい暴行を受けても、我慢している先生はたくさんいるはず。教育現場であっても、『暴力は犯罪』という認識がもっと広がるべきだ」と訴えた。

#### 【用語解説】児童館

児童福祉法で定められた0～18歳未満を対象とする屋内型の福祉施設。集会室や遊戯室、図書室などが設けられ、専門の指導員が季節や地域の実情などに合わせて子供たちに健全な遊びを指導する。一般財団法人「児童健全育成推進財団」によると、平成27年時点で全国に約4600カ所あり、児童福祉施設としては保育所に次いで多い。

### 最近の教育現場での主な対教師暴力事件

平成28年	1月	愛媛県内の中学校で、2年の男子生徒が校則違反を注意した教諭を殴り、傷害容疑で逮捕
	2月	兵庫県内の中学校で、3年の男子生徒が自転車の乗り回しを注意した教諭を殴るなどし、暴行容疑で逮捕
	4月	滋賀県内の中学校で、3年の男子生徒が教諭2人を殴り、傷害容疑で逮捕
29年	1月	京都府内の中学校で、3年の男子生徒が校長を殴り、鼻の骨を折る重傷を負わせ、傷害容疑で逮捕
	9月	福岡市内の私立高校で、1年の男子生徒が講師を蹴る動画がインターネット上で拡散。男子生徒は傷害容疑で逮捕
	10月	福岡県内の中学校で、男性教諭が自身の顔を殴った男子生徒を取り押さえ、傷害容疑で生徒を現行犯逮捕
	11月	愛知県内の中学校で、2年の男子生徒が教諭の給食に下剤を混ぜ、食べた女性教諭が救急搬送される

※学年はいずれも発生当時

### 報道写真集 「2017愛顔つなぐえひめ大会」好評発売中

愛媛新聞 2017年12月20日

愛媛新聞社は、「報道写真集 2017愛顔(えがお)つなぐえひめ大会」を発売中です。

10月28日から30日までの3日間、愛媛県で初めて開かれた全国障害者スポーツ大会。第17回となる「2017愛顔つなぐ愛媛大会」では、県内の9市町で13競技と三つのオープン競技を実施しました。愛媛勢は54個の金メダルを獲得、メダル総数は、121個と過去最多となりました。写真集では、県勢の活躍を中心に、開会式、各競技・各会場の様子を写真で構成、愛媛県選手団の顔写真付き名簿と全記録を掲載しています。

県選手団約450人を含む47都道府県と20の政令指定都市の選手団や大会役員、観覧者や総勢8万2千人が参加した大会の、完全保存版としてお手元に残されてはいかがでしょうか。

【体裁】A4判、80ページ、オールカラー

【定価】本体1400円+税

【発売所】県内書店、愛媛新聞社・県内支社・エリアサービス（取り寄せ）。発刊後はインターネット（[www.ehime-mc.co.jp](http://www.ehime-mc.co.jp)）でも注文できます

【問い合わせ】愛媛新聞サービスセンター出版部＝フリーダイヤル（0120）843400、ファクス089（947）7656

発行 愛媛新聞社



## 日本一の碾茶栽培、障害者一役 京都・城陽でよしず作り



京都新聞 2017年12月19日  
ヨシを編んでよしずを作る施設利用者ら（城陽市富野・障害者支援施設「和」）

日本一に輝いた京都府城陽市の碾茶（てんちゃ）栽培に欠かせないよしずを、障害者支援施設「和（なごみ）」（同市富野）の利用者が作っている。作り手が減って困っていた茶農家と、地域との関わりを求めていた施設の思いが一致した。施設利用者は「体が元気な限り頑張りたい」と意気込んでいる。

抹茶の原料になる碾茶の覆下（おおいした）栽培は、光を遮ることでうま味成分が渋みに変わるのを防ぐ。近年は黒い化学繊維の覆いが主流だが、よしずや稲わらを使う農家も残る。今年の全国茶品評会で最優秀賞を得た菊岡政次さん（70）、祐一さん（39）親子＝同市上津屋＝も使い、「味や香りが上品になる。とても重要で守っていききたい」と話す。

よしず作りは主に茶農家の冬場の仕事だったが、高齢化や需要減で生産者が減少。一方、施設利用者も高齢者が増え、地域とのつながりが希薄になっていた。約2年前、施設職員が知人の菊岡さんに手伝えることがないか相談し、よしず作りを担うことになった。

かつて手掛けていた農家に編み方の指導を受け、施設利用者11人が障害の特性に応じて役割を分担し、職員が支えている。ヨシは近江八幡市で仕入れ、皮をむいて長さを調整。手作りの編み機に1本ずつ重ね、2本のロープを交差させて縛り上げていく。縦約3メートル、横約1・2メートルのよしずを昨年度は110枚納品し、本年度は300枚仕上げ予定だ。

山口嘉信施設長は「利用者は生活に張り合いが生まれ、責任感も強くなった」と話す。利用者の古川晴一さん（68）も「これまでテレビを見て過ごすことが多かったけど、手を動かすのが好きなので楽しい」。日本一の茶を陰で支えていることに充実感を漂わせている。

## 障害者らが作るタオルアート人気 クリスマスや結婚式…贈り物に注文増加 和歌山

産経新聞 2017年12月20日

お祝い事に“タオルアート”を一。和歌山市の福祉作業所「パンダ作業所」で働く障害者や引きこもりの人たちが、タオルで作るケーキやキャンディーなどの置物が「かわいくて実用的」と人気を集めている。今秋から作り始め、「クリスマスケーキ」はすでに300個が売れた。結婚式や誕生日、成人式などの贈り物としての注文も増え、生産は追いつかないほどになっている。「自分たちが作ったものがたくさん売れるのは驚き」。障害者らのやりがいにもつながっているという。

パンダ作業所の和歌山営業所「パンダフレンド」（同市田中町）は8月にオープンし、現在は3人が通所する。当初はタオルを折ったり袋詰めしたりする内職のみだったが、「障害があっても、やりがいのある仕事ができたら」と管理者の宝条彩未（あみ）さんがタオルアートづくりを思いついたという。

定番商品となったのは、タオルを縦に盛るようにふわふわと巻いたカップケーキ。野いちごなどのトッピングをのせたかわいらしいデザインだが、宝条さんは「飾って見飽きたら、タオルとして使ってもらえます」と笑顔を浮かべる。

クリスマスシーズンを迎え、バスタオルを巻いて作ったケーキの土台に、ポインセチアの造花やサンタクロースを飾り付けるなどしたクリスマスケーキも販売。結婚式の引き出物などの依頼も受けるようになり、ハンドタオルで作ったクマ2頭で新郎新婦を表現したプレゼントも手がけている。

作業にあたる50代男性は、「チームで何かを作る作業は初めて。季節感があり、豪華なものがつくれるとうれしい」と話す。

同作業所は今後、より多くの人を受け入れることになりそうとしており、宝条さんは「やりがいやおもしろみを感じて仕事ができる方がいい。アイデアはホワイトデーや敬老の日の贈り物など無限に広がるので、喜ばれるものをたくさん考えていきたい」と語った。

商品は同市のフォルテワジマや和歌山ビッグ愛などで販売している。問い合わせは同作業所（電）073・488・4308。

## 佐野に救護施設「フルーツガーデン」 栃木県内では61年ぶり新設【動画】

下野新聞 2017年12月20日

救護施設「フルーツガーデン」を案内する塚田理事長（左）＝18日午後、佐野市犬伏上町



経済的困窮や障害などを複合的な理由で自立した生活が困難な人が暮らす救護施設「フルーツガーデン」が佐野市犬伏上町に新設され21日、落成式が行われる。運営する同所の社会福祉法人「三松会（さんしょうかい）」によると、救護施設の新設は県内で61年ぶりで、宇都宮市内の1施設に次いで2カ所目。

来年1月4日から利用者が入所する。

救護施設は生活保護法に基づく施設で「最後のセーフティーネット」と呼ばれる。福祉事務所を通じて入所し、必要な医療や生活支援などを受ける。

同法人によると、フルーツガーデンは定員60人。居室は4人部屋と2人部屋、個室を整備。食堂や浴室、医務室、静養室などがあり、屋外には多目的広場や作業菜園を備える。県内の約10人の入居が決まっているという。

施設のモットーは「全員家族」。利用者の意向や尊厳を尊重し、地域の福祉の拠点を目指すという。

## 障害者野球 全国初Vに感動

読売新聞 2017年12月20日

全国大会で優勝を果たした岡山桃太郎のメンバーら（県庁で）

◇県内のチーム選手ら 県庁で報告

11月に兵庫県豊岡市で開催された全日本身体障害者野球選手権大会で初優勝した軟式野球チーム「岡山桃太郎」（玉野市）が19日、県庁に伊原木知事を表敬訪問した。

岡山桃太郎は、1984年に結成された身体障害者チーム。9月に高梁市で開かれた中四国大会を制し、全国大会では10連覇中の神戸コスモスを決勝で見事に破った。

県庁を訪れたのは監督や選手ら11人で、伊原木知事のほか、毎年対戦している県議会チームの部長を務める伊藤文夫議長らが出迎えた。

伊原木知事は「努力を重ねれば全国優勝も出来ることを示し、多くの方々の励みとなった」とたたえ、記念品を贈呈した。妻木和正選手（56）は「優勝報告が夢だった。まさか神戸に勝てると思わなかったの、とても感動している」と話し、副松正信総監督（74）は「みなさんに協力していただきながら、来年もまずは中四国での優勝を目指したい」と語った。



## 「自主夜間中学」を34年 NPO理事長の榎本氏（ちば The People）

日本経済新聞 2017年12月19日



日暮れの早さが夜の寒さをいっそう感じさせる師走の午後8時すぎ。松戸駅にほど近い松戸市勤労会館を訪れると、約30畳の和室には使い込まれた座卓が並び、様々な世代・国籍の生徒と指導役のスタッフが肩を寄せ合うように学び合う光景が広がっていた。

「こんばんは」。最初にあいさつしてくれたのは和室の真ん中に立っていた1人の男子中学生。愛らしい笑顔にこちらの表情も自然と和らぐと、畳に座っていた榎本博次（68）が「彼はいじめを受けて小学校から不登校なんです」と教えてくれた。「学び直しの場」を34年間守り続けてきた榎本のまなざしは古びた和室に集

う彼らを分け隔てなく包み込む。

榎本が理事長を務めるNPO法人「松戸市に夜間中学校をつくる市民の会」が「松戸自主夜間中学校」を開講したのは1983年8月。スタッフ12人と生徒7人から始まり、戦後の混乱で義務教育を受けられなかった人、いじめによる不登校や外国籍で授業についていけない中高生、障害を抱える人など約1800人が学び直しの場を得てきた。

榎本自身は不動産関連の仕事に携わり、知人の誘いで市民の会を立ち上げるまで夜間中学の存在すら知らなかった。ただ、ベ平連（ベトナムに平和を！市民連合）に刺激を受けた全共闘世代として社会変革を夢見た学生時代の情熱が、夜間中学設立という新たな運動に榎本を再び突き動かした。

現在は火曜と金曜の週2回、10～70代の約50人が学ぶが、開講からの34年間は苦難の連続だった。当初は公共施設で部屋を借りるにも公立と誤解されるとの理由で「自主夜間中学」の名称すら使えなかった。運営費は支援者の会費やカンパが中心でスタッフは全て無償。公的な援助を受けなかったのは「自主夜中への補助金が、公立夜中を設置しない行政側の言い訳に使われる」ことを恐れたからだ。

幼稚園生の子どもの「お父さんは文字読めないの？」と言われてショックを受けた30代男性は、自主夜中で初めてひらがなの五十音をノートに書き上げた時に喜びのあまり「ワーッ」と叫んだ。社会や学校での差別や偏見を身をもって知る人たちの最後の居場所を守る榎本らにとって、中学卒業資格が得られる公立夜中の開設は悲願だった。

松戸市が県内2校目となる公立夜中を2019年春に開設すると教育長から直接伝えられたのは公表前日の2月21日。自主夜中での生徒との学び合いが日常生活の一部となった34年間は「長いようで短かった」。

午後9時前に始まった「帰りの会」。中学3年から通う中国籍の女子高生が「大学入試に合格しました。継続は力なりです」とはにかみながら報告すると、教室は笑顔と拍手であふれた。最後列には目を細める榎本がいた。 =敬称略

## <生活保護費>「どんどん下げられると、やっていけない」



毎日新聞 2017年12月19日  
生活保護基準引き下げに反対する院内集会で、反対の意思をプラカードでアピールする参加者たち=東京都千代田区の衆議院第1議員会館で2017年12月19日午後4時24分、西田真季子撮影

◇受給額引き下げ方針で衆議院第1議員会館で院内集会

政府が18日に公表した生活保護受給額の引き下げ方針について、反対する受給者らが19日、

東京・永田町の衆議院第1議員会館で院内集会を開いた。集会には約160人が参加し、受給者は「保護費をどんどん下げられると、やっていけない」と憤った。

脳性まひで電動車いすで生活する川西浩之さん(45)=東京都=は「まるで、障害者や病気の人は早く死んでくださいと言わんばかりの状況」、東京都の宮本由喜さん(75)は「どんどん下げられると、やっていけない。上に着るものは周りの人がくれて、下着とジーパン、靴とソックス程度しか買わない。それでも髪は伸びるし、電気製品は10年以上たつとダメになる」と訴えた。

政府の方針では、受給額のうち食費や光熱費など生活費相当分について、3年で最大5%引き下げるとしている。集会では生活保護基準の見直しを話し合った社会保障審議会生活保護基準部会の報告書や政府方針について、法政大学の布川日佐史教授や元生活保護ケースワーカーで弁護士の森川清さんらが解説した。森川さんは、生活保護を受給している人からの聞き取りや家計調査をしていない▽前回(2013年)引き下げの影響の検証が不十分▽受給者以外の低所得層の消費との比較で引き下げを決定したこと▽最低賃金や住民税、就学援助など関連制度へ影響を及ぼす――などの問題点を指摘。受給者以外の低所得者層について、「本来生活保護を利用できる人の7~8割はできていない。その人たちが多く含まれた状態」と、比較対象として不適当とした。

子どもの貧困に直面しやすいひとり親世帯では、母子加算も平均2割削減される。名古屋市立大学人文社会学部の桜井啓太専任講師は「母子家庭は生活保護本体の引き下げに加え、母子加算、児童養育加算引き下げの影響で、トリプルパンチを受ける」と懸念した。

最低賃金1500円を求める団体「エキタス」のメンバー、原田仁希さん(28)は「法律上、最低賃金は生活保護との整合性を考慮することになっている。生活保護費が削られると最低賃金は低く抑えられ、負の連鎖が起きる。受給者だけの問題ではなく、ろくでもないような最低賃金近くで生きている、若い労働者にとっても問題。政府は論点をすり替えないでほしい」と怒りを込めた。【西田真季子】

## 自殺願望を察知 県がツイッターに広告表示

中日新聞 2017年12月20日

### ◆相談窓口へ誘導

静岡県は十九日、県内から短文投稿サイト「ツイッター」に自殺願望が書き込まれると、広告を表示して相談窓口へ誘導する取り組みを始めた。県によると、ツイッターなどに自殺願望を書き込んだ女性ら九人が殺害されたとされる神奈川県座間市の事件後、自治体で

は全国で初めて。

#### ツイッターの広告が表示されたスマートフォン画面

個々のプロフィールや端末の位置情報サービスによって、県内からの投稿を判別し、広告が画面に出る仕組み。ツイッターに「自殺したい」「自殺手段」などの言葉が書き込まれると「だれにも話せないことを話せる場所があります。」と書かれた広告が表示される。

広告をクリックすると、県障害福祉課のアカウントが表示され、県の「若者こころの悩み相談窓口」に案内される。県は広告のクリック数に応じてツイッター社に広告料を支払う。

このほか、相談窓口の電話番号が書かれたお守り型のカードを県内全ての高校生と教員（計約十一万人）に配布する。

同課の清水初美精神保健福祉室長は「事件がきっかけでツイッターに悲しい言葉をつぶやいている人がたくさんいることが分かった。県内で痛ましい事件が起きないようにメッセージを送りたい」と話した。（垣見窓佳）



#### 徳島) ルミネカンバスに高校生らの作品

朝日新聞 2017年12月20日

##### 最優秀に選ばれた「アトリエ ムジカ」の作品

児童虐待の防止を訴えるオレンジリボンキャンペーンに合わせて鳴門市が募った「LEDルミネカンバス」の最優秀賞に、市民らの投票で、同市撫養町のピアノ教室「アトリエ ムジカ」に通う高校生ら約30人の作品が選ばれた。27日に市役所で表彰式がある。

ルミネカンバスは専用のボードに、LED照明を差し込んで絵や文字を書く作品。アトリエ・ムジカでは4色のLEDを使い、生徒らが練習の合間などに差し込み、1カ月がかりで仕上げたそうだ。

応募作品は来年1月15日まで、市役所の渡り廊下に展示されている。

（長谷川大彦）



#### 記者コラム 窓 絵本の記憶

中日新聞 2017年12月20日

三歳の時、家族が旅行に出掛け、祖父母宅に一カ月預けられた。寂しがる私に、祖父母は何度も同じ絵本を読んでくれた。一カ月後には、文字は読めないのにその内容を丸暗記していた。今でもお気に入りの一冊だ。金沢市内であった、心身障害児向けの絵本の読み聞かせ教室で、講師は保護者に「絵本のリズムは耳に残る。読み手の感情も子どもに伝わるので、穏やかに」と助言した。その傍らで、少女が気持ち良さそうにまぶたを閉じていた。母親いわく、直前まで不機嫌だったが、読み聞かせで落ち着いたのだという。私が覚えた絵本は迷子のスズメが母親を捜す物語だった。ホームシックの幼児には少し酷な内容だが、心と記憶に残ったのは、寄り添ってくれた祖父母の温かさがしっかりと伝わったからなのだろう。（太田理英子）



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行